



# 香葉

関東学院女子短期大学  
香葉会  
発行人 山口佳子  
代表 横浜市金沢区  
六浦東1-50-1  
直通・FAX 045-787-0678

E-mail: kouyoukai@nifty.com  
URL <http://homepage3.nifty.com/kouyoukai/>

第5号  
通算36号

### 鎌倉散策

- 日程 平成19年11月17日(出)
- 時間 午前10時(集合)～午後1時(解散)
- 場所 鎌倉駅西口(江ノ電側)
- 会費 1,000円(資料、保険代含む)
- 申し込み方法  
香葉会事務局までFAX・はがき・Eメールでお申し込み下さい。準備の都合上**11月5日(月)**までにお願致します。  
FAX 045-787-0678

秋の一日、鎌倉の近代文学館あたりをのんびりと歩いてみませんか？今回は、散歩をメインに考え周りの移りゆく景色を眺めてみませんか。歩きやすい服装で軽快に散策に出かけましょう。



### 陶芸教室

- 日程 平成19年11月3日(出) 10時～12時  
平成19年12月1日(出) 作品完成引き渡し予定(10時～12時)
- 場所 関東学院大学 室の木7号館
- 会費 2,000円
- 持ち物 エプロン・お手拭き
- 申し込み方法 同上  
申し込みは**10月22日(月)**まで。

## 陶芸教室

企画

へのお願い

キャンドルスタンドカバーを作りましょう。  
静かに仄かに揺れる灯りを楽しみませんか。  
デザインは思いのままに、それぞれに……！  
親子参加OKです。



### 山手西洋館散策

- 日程 平成19年12月13日(休)
- 時間 午後1時集合
- 場所 エリスマン邸集合(元町公園入口バス停側)
- 会費 500円(傷害保険代など)
- 申し込み方法 同上  
申し込みは、**12月5日(休)**まで。

今年はいりスマン邸より出発。イタリヤ山庭園にむかって、山手の紅葉を楽しみながら、外交官の家、ブラフ十八番館を目指して歩きましょう。(歩きやすい服装で！)





# 会長あいさし 山口 佳子(国1)



皆様こんにちは。早いもので短大改組となりましてから五年の歳月が流れてゆきました。今

教育を實踐して来たのだと思います。大学で学ぶ事がごく一般的になった今、学べることへの感謝を再度確認しなければならぬ。また学ぶだけではなくどう生かし、自分自身がどう生きて、次代へこの教育のレベルを伝えていけるかではないのでしょうか。

情報化の時代といわれますが、年金の問題でもわかるように、入力ミスといったような人間でなければ出来ない事が根本になっっているのです。人と人の結びつきが、人を育て考え方を広げていく大切な要素となっているのです。

学校は、もっと大きな時代の変革のなかにあり、大学の学部構成自体も大きな波の中にあります。少子化という人口構成が大きな要因ではありますが、一組織のなかでの滅私奉公という形態は敬遠され、独自の社会感を持つ、いえ持たなければ、仕事をもって生活をする人として生きられない。即ち知識経験の豊かさは、幅広く要求され、且つ自分でしか出来ない専門性をも身につけなければならぬのです。大学という教育の場は、どこまでこれに対応しているのでしょうか。このような状況のなかで、関東学院のような一貫教育は、とても有利にはたらくのではないのかと私は考えています。

二〇〇九年、関東学院は一二五周年を迎えます。一二五年にどんな意味があるのでしょうか。空襲などの戦火の後始末、食べていくことで一杯だった戦後、精神的にも、肉体的にも、ぼろぼろであったからこそ次代を見据えた先駆者が輩出され、教育の重要性を語り、学校を作り、

同窓会は、この役割の一端を担っているといっても過言ではないと考えています。同じ学び舎に学んだという繋がりは、換えがたいものであると同時に、大きな力を持っていると思います。長く生きたものが、いつも昔は...といっているわけではありませぬし、卒業して間もない人は仕事、結婚、家庭という重責と対峙しなければならぬのです。そういったとき、先輩の客観的な話は、身近な人の言葉とはまた違った響きを持つものなのではないかと考えます。短大の同窓会「香葉会」はいきいきと活動しています。ゆっくり時間のとれるようになりました方には「日

本画教室」。ちょっと気分を変えてという方には、単発の「陶芸教室」。ご主人や子供たちと一緒にできればという方には「散策」、横浜の歴史に触れてみたい方には「山手西洋館めぐり」。と先輩後輩が、また久しぶりに会う同級生、との触れ合いの機会が多々ございます。「香葉」をごらん頂きお申込ください。



古城 房子 (英1)

春のような暖かい晴れた十一月十日、葉山散策の一日は横須賀線、逗子駅から始まりました。バスに乗り込み逗子の町を抜けて、葉山一色海岸に到着。「葉山」というと御用邸、別荘地、海、ヨットという、セブなイメージでしたが、「エッ、葉山ってこんな処だったの?」という発見に、とても楽しいウオーキングになりました。国道を挟んで海と反対側には、車も入らない狭い道が

現在香葉会の活動をお知らせできませんが、「香葉」と「香葉ホームページ」でございますが、「香葉」の皆様のお手元にお送りする通信費が皆様から頂きました年会費を上回る状況があります。今年度もますます楽しい活動を企画いたします。皆様のご参加と年会費・賛助金へのご協力をよろしくお願い致します。

入り組み、道沿いに大正か昭和の初期に建てられたか...と思うようなどっしりした石造りの洋館や、古風な木造の家屋、道路にも庭にも、色とりどりの花が咲き乱れ、みんなで町を美しくしようという人の匂いが感じられる温かい雰囲気。道が狭く坂が多く家の建て直しや新築の許可を取るのが困難なことが、このアンティークな町を作り出しているようです。国道を渡り海側に出ると、そこには明るい湘南の海が広がっていました。砂浜を歩いて御用邸の裏側に出ると裏門近くに警備の警官が常駐する小さな建物があります。そこに居る若いおまわりさんに、御用邸のことを聞きました。二十四時間、交代で警備しているそうです。その裏門から出て来られる皇太子ご一家の散歩のことなど話してくれました。暑い夏や寒い冬は大変だろうなと思いましたが、任務に対する誇りと使命感を持っていらっしゃる感じられました。隣接する逗子市から合併を求められながらも拒否し続けてこの小さな街の独立を守ってきた、葉山町の気概の一端をのぞいた美しい秋の一日でした。



元幹事長  
井上 啓子 (家27)

本人のアメリカでの子育てについてレポートしてみたいと思います。

先日、こちらの日本語ラジオで、買い物の途中、三歳の子供が車ごと連れ去られた(日本で)、と報じていました。よくよく聞いてみると、眠ってしまった子供を車に残し、エアコンをつけて(すなわち車のキーをつけて)母親がほんの数分車を離れた際に盗難されたということでした。犯人もまさか子供が乗っているとは思わず(後部座席で眠っていたそうです)そのことを知ると怖くなって自首したそうで、子供さんも無事だったそうです。このニュースを報じていたラジオのキャスターが「アメリカだったら子供を車に残した時点で親が罰せられますよね。」と話していました。

こちらは子供とのかかわりに対する法律や見解が厳しく、例えば十二歳以下の子供だけで留守番をさせて

香葉会の皆さま、お元気で過ごすごうか。

早いもので、ロサンゼルスからのつたない便りを読んでいただくことも、三回目になりました。

今回は私が日本人コミュニティで聞きした、駐在員や永住日

はいけない、子供を人前で泣かせる虐待と見なされる、ということがあるそうです。赤ちゃんの夜泣きも長く続く周辺住民が有無を言わず、警察に通報するそうです。

また、車社会の国でもありますから、通学には大人が送り迎えをすることが通常です。もちろん、スクー

ルバスなども完備されていますからこれらを利用する人もいますが、私の周りの方々はほとんど自家用車を使っています。

ですから、子供達はどこへ行くにも親と一緒にすることになるのです。放課後に友達と遊ぶにも、あそこの公園に行きたいのだけれど、お母さん送ってくれる?とお伺いを立ててからでなければ遊べない状況です。

ただ、駐在員の子供達は三、四年後には日本に帰る方が多く、学校から帰ると日本語の塾に通い、土曜日

も日曜日も塾で勉強しているようです。遊びに行くといっても年に数回が良いところのようです。学校、塾、習い事の送り迎えはほとんどの場合母親がしています。ですから、お母さん方のスケジュールは全て子供を中心に立てられます。密着度が高くなるのも当然ですね。私もこちらに来てから娘との時間がとても多くなり、「親子の会話」が格段に増えました。今では同志という感じさえしています。(私の娘は十

九歳ですからかなり頼りになります)言葉の問題があり、一番安心できる場所が家庭。このような意識が我が家の結束を強くしています。ただし、アメリカ人の常識では、

密着度が高いのは十八歳までで、十九歳になると親の被扶養者で居ることと違和感を持たれるようです。「あなたはもう十九歳だから、あなたが社会的に自立していることを証



太宰美紀子 (国7)

早朝、学生の登校していない中庭では、何種類かの小鳥たちが餌を啄んでいます。昼頃になると幼稚園のお迎えでお母さんと一緒にきた幼児や六浦幼稚園児達が中庭を走っています。その後、学生たちがバレーボールやサッカーなどで遊んでいて中庭はいつも賑やかです。女子短期大学から人間環境学部になって木々に囲まれた中庭は、とてもよいスペースになっています。

さて、人間環境学部は二〇〇七年三月で第二回の卒業生を出し、歴史を刻み始めました。二月には、大学の先陣を切りISO14001・2004(通称環境ISO)適合認証を取得し、エコキャンパス宣言をしました。環境の保全と改善及びそれに貢献できる人材の育成を掲げ、様々な環境目的と目標を定め人間環境学部に関係する全教職員と学生が取り組んでいます。

明できるもの(本人宛の高熱水費の請求書等)を提示しなさい」と、カレッジの手続き時に言われましたが、。それでは、今年はこの辺で。皆様お元気で益々活躍ください。

また、学生の学びから学生生活の悩み等、何でも応えてくれる学生支援室がオープンし、中庭から出入りできるので、気軽に入っていく学生を沢山みかけます。

二〇〇八年四月から人間発達学科に、小学校教諭教員養成課程の設置を文部科学省へ申請しています。設置が許可されれば、幼稚園教諭、保育士とともに小学校教諭の資格が取得れることとなります。さらに、人間環境デザイン学科で学芸員の資格取得が可能になりました。三月に行われた管理栄養士国家試験の合格者も昨年度にくらべ大幅にアップしています。

人間環境学部の特徴の一つは、学生主体の催物が多いことではないでしょうか。六月には、健康栄養学科の学生主催でバレーボール大会が行われ、多くの学生が参加し大成功でした。七月には学科を越えた学生たちが主催し、四年間過ごした大学で出会った人たちにに向けて「人と人が繋がることへの素晴らしさと感謝の気持ち」を表現する」ことを目的に作品展が行われます。

真剣に毎日を過ごしている多くの学生たちをどうぞ応援してください。関東学院大学人間環境学部は、学生が多くの実りを得て卒業し、社会で活躍されることを念じています。

香葉写真館

〈六浦キャンパス〉

〈室の木校地〉



元教室 → 燦葉会事務所



唯一残った短大校舎



元のままの階段



六浦正門へ向う!!



フォーサイト21 & チャペル



元ルツ寮1階食堂 →  
人間環境学部デザイン室へ



5号館 (チャペル棟)  
元教室 → 研究室へ

# コーヨースポットライト

スポット  
ライト

## 子育て... 1 私の子育て

松野トシ子(英5)



自分の子育てを改めて振り返る機会を与えられた事を感謝致します。七十代、私の年代の人々は子供を育てることに現代程騒がしくなかった様に思います。こう感じるのには私だけなのでしょう。妊娠と告げられた時は本当?と思いました。現代の様に画像で見られるわけでもなし。しかし日が過ぎるにつれて少し動く様になり、やっと実感。さあそれならばどんな子供で又どんな風に育てたいのかなあと。しかも男の子か、女の子かそれも疑問。当時大勢の家族の中で暮して居りましたので、かなり難かしかった事ばかりでした。生れて来た子供が男の子、明治の親の元では、母親は置いといてまず子供子供の毎日。子供主導の時間が過

ぎて行く有様でした。しかし母親は私とばかり、家族との接点を探し暗黙のうちに子供に取って良い方向へと進みました。子供にとってほしくない事は、はっきり断わる。この事が一番難かしかった様に思い出します。しかし子供達は礼儀作法とか挨拶とか、自然に身について来てとても感謝致して居ります。そうこうしているうちに男二人女二人、四人の子供を育てることになり尚一層頑張ることになりました。

だんだん大きくなり自我も芽生え、思春期を迎える年令になって四種類の見解(何事に関して)を主張。親として受け入れられる事ばかりではなく、ここで又大きな山を越えねばならない時。具体的に男の子はバイク、女の子はアルバイト。当時学校でバイクは禁止されていました。子供はでも乗りたい。納得させるのに話し合うしかないと決め、よく徹夜しながら話し合ったものです。今にして思えばこの時が一番子供達の心を知るのに大事で、しかも私にとっても有意義な時でありました。この様にして大きくなった四人は家族を作り子育ての最中、どの子も子育てには四苦八苦している様です。その有様を遠くから見ている今日今頃です。

## 子育て... 2 初めての育児

川本 美佳(国32)



この春で、娘は一歳を迎えました。振り返ってみると色々な事があり、私にとって初めての妊娠・出産・育児は、大変な事だらけでした。

中でも、夜泣きには参りました。生後二ヶ月くらいのことでした。夜九時頃から、ぐずり出し、夜中の二時、三時まで泣く日が続きました。抱っこをしてもダメ、ミルクも母乳もダメ。どうしても泣いたらいいのか分からず、辛い時期でした。

娘と一緒に泣いて泣いた事もありました。また、泣いている娘を目の前にしながら、何も出来ずに、ただボーっと見つめていただけ、というような状況にさえなった事がありました。主人も仕事で疲れているのに、娘を抱っこして夜中に散歩に連れ出

してくれたり、ミルクをあげてくれたりと、色々協力してくれましたが効果は無く、夫婦で寝不足の毎日を過ごしました。

そんな状況を何とか抜け出したいと、必死な思いで出かけた育児相談で、保健師さんから優しい言葉をもらい救われました。今、考えると私が酷い顔をしていたから、慰めてくれたのではないかと思えます。でも、「お母さん、良く頑張っていますよ。えらいですよ。」と、言葉に出して言ってもらえたのは、私にとって大きな事でした。

その夜も娘は夜泣きしましたが、私の気が楽になっているのが分かったのか、いつもより早く寝てくれました。それから少しずつ、ぐずる時間が短くなっていて、気付いたら夜泣きをせずに寝てくれるようになりました。この夜泣き時期が辛かった分、その後にあった寝ぐずりや、夜中に何度も起きるといった事も乗り切れたように思います。

そして、今、娘は外を走り回るくらいになり、理解できる日本語も少しずつ増えてきました。寝ているだけの赤ちゃんの頃よりは、世話もだいぶ楽になってきました。辛い事や、大変な事もありますが、娘が居るから出来る経験もたくさんあります。昨日できなかった事が、今日できる様になったりして、成長が目に見える嬉しくなります。私が頑張っている以上に娘は、日々成長してくれていることを忘れずに、育児に取り組んでいきたいと思っています。

## 子育て...

## 3 幸せの瞬間

富永 直子(英48)



「ママの子供に生れてきてくれてありがとう」

病院の授乳室で出産してから初めて、我が子を抱きながらそっと語りかけた言葉です。

妊娠中、私と主人は、日に日に大きくなっていくお腹をさすりながら、丈夫で元気な赤ちゃんをこの手で抱きしめる日が、早く来て欲しいと願いながら、一日一日を過ごしていました。

出産を間近に控えたある日、母が、「陣痛は痛いけど、生れてきた我が子の顔を見た瞬間、その痛みは喜びに変わるから。」と手を握りながら話してくれました。

その瞬間、出産に対する不安が和らいでいくのを感じました。母の手は温かく、とても大きな優しさで、私を包み込んでくれました。

それでも、出産当日、陣痛が激しくなるに連れ、やはり不安はありました。

そんな中、私は力強く、そして明るく包み込んでくれる大きな手があ

りました。それは出産に立ち会ってくれた主人の手です。

私の横に寄り添い、「この痛みを越えればあんなに会う日を願っていた赤ちゃんに会えるから。」と、何度も励ましてくれました。

家族が私を支えてくれて、無事出産した今、私の腕の中でスヤスヤと眠っている生まれて間もない我が子の顔を見ていると、喜びで胸が熱くなり、自然と涙が溢れました。

それは、私が母になった事を実感した瞬間でした。

その娘も、この五月で一歳四ヶ月になりました。歩くのも上手になり、毎日のように、外で元気にお友達と遊んでいます。最近では、自己主張をはっきりとするようになり、私がイタズラを注意すると、「アッ! アッ!」と、大きな声を出し、口を「アウッ」ととんがらせて怒ったり、ゆっくり仰向けに寝転がり(勢いよく倒れると頭を打つ事が分かっているのだ:) ジーッと私を見つめ、何かを訴えます。その姿を見ていると、怒る事を忘れ、つい笑ってしまいます。

そんな慌ただしい毎日の中で、癒される瞬間があるのです。「新しい刺激を!」と、新しい公園や保育園の園庭開放へ行った時の事です。

育児教室や地域の集まりで仲良くなったお友達とは、週に何度も遊んでいるので、すぐに楽しく遊べるのですが、そこでは、年齢も様々で、最初は私の手を握りながら、遠くから皆を見ています。私が、「お友達

を握り返し、ゆっくりと歩き始めました。時々立ち止まりながらも皆の前に辿り着くと、決心したかのよう

に、私の手を離し、「行ってくるね!」と言っているかのように私を見上げ、友達の間の中へ入って行きました。

私は娘の姿を見守りながら、「頑張れ!」と応援しました。いつになく真剣な娘の表情からは、一緒に遊びたい気持ちと、どうやって仲間に入れば良いのか戸惑っている気持ちの両方が伝わってきました。

ジーッとお友達のやっている事を見つめ、時々まねしてみたり...

しばらくすると、お友達がそっと娘の手を握り、何か話しかけてくれたのです。娘はそれに答えるかのよう

に、一緒に遊び始めたのです。その瞬間、娘が、目をキラキラと輝かせて笑ったのです。私は嬉しくて泣きました。

日常の、ほんのささいな瞬間で、決して特別な事ではないのですが、その瞬間は、私にとっては大切な宝物なのです。

これから娘が成長するに連れ、育児も益々大変になり、悩み疲れる事もあるでしょう。

でも私は、娘が与えてくれる、「幸せの瞬間」を全身で受け止めながら、母として、一緒に成長して行きたいと思っています。



## オリイブの会



平成十八年十一月二十六日(日)於横浜そごう十階「サファイア」にて、開催いたしました。

(家政科12回)

## 募集

『香葉』の散策・講演会等々、皆様のご希望の企画を募集いたします。こんな事をやってみたい、あんな事をやってみたい、是非、皆様の声をお聞かせ下さい。

また、『香葉』の編集などお手伝い頂ける方も募集いたします。卒業生で作る『香葉』を楽しく編集しています。是非、多くの方の参加を希望いたします。原稿も募集中

# 私の仕事

阿部香葉子 (幼29)



皆さんはじめまして、こんにちは！私は皆さんと同じ関東学院の卒業生で阿部香葉子と申します。

私は女子短大(幼児教育科)としては最後の卒業生で、卒業後は幼稚園教諭として幼稚園に勤めましたが、今は縁あって「株式会社みつば」として働いています。

今回、香葉会様から「私の仕事」というテーマで出稿してみても、とお話をいただき、とても光栄であると同時に、きちんとお伝えできないだろうかという不安もありました。同じ関東学院を卒業した一学生のストーリーとして、ご一読いただければと思っております。

まず、私が幼稚園教諭を目指したのは人の心とふれあう、心の豊かさを育む仕事がしたいと思ったからです。子ども時代に自分に夢を与えてくれた周りの人たちへの感謝の気持ちが高じて、やがて今度は、自分が子どもたちに夢を与えてあげられる存在になりたいと思うようになったのです。念願かなって幼稚園教諭として現場に立ったときに感じたのは、自分が夢を与えるというよりは、忘れてしまった夢を見る心を、子ども

たちによって思い出させてもらった。そんな表現の方がはるかに合っているということ。そして子どもたちから日々、多くのことを学ぶ毎日でした。

その後、幼稚園を一旦退職したものの、やはり何らかの形で保育と繋がる仕事がしたいと思っていたときに出会ったのが、現在勤務している「株式会社みつば」でした。みつばは保育に特化した人材派遣会社で、お客様の多くが幼稚園・保育園です。私はそこで、保育のお仕事を希望する人たちに、その人にピッタリ合ったお仕事を紹介する派遣コーディネーターという仕事をしています。

保育はとてもやりがいのある仕事であるにも関わらず、早い段階で離職してしまう人がとても多い仕事でもあります。閉鎖的な人間関係や、過酷な長時間労働、保育観の違いなど、理由は多々あると思いますが、本来、素晴らしい素質を持った保育者が、些細な理由から保育の道を諦めてしまうのは、とても残念なこと。私がこの仕事に興味を持ったのも、そんな保育者たちを派遣会社という立場からバックアップしてみたいと思ったからです。

そして今の私には、その人に最も適した職場環境(派遣先)を提案し、その結果、現場復帰を果たすお手伝

いをする事、そしていきいきと保育の仕事を楽しくしている姿を見ることが、これが喜びであり、仕事のやりがいになっています。

今みつばでは保育のお仕事をした方方を大募集しております。かつて現場で活躍をされていた方、ブランクがある方でも大歓迎です。あなたの優しさをもう一度現場で活かしてみませんか？ 皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

最後に私が社会に出るにあたってお力添えを下さった大豆生田先生をはじめ、諸先生方には大変感謝しております。この場を借りてお礼申し上げますと共に、香葉会会員の皆様のご活躍を心よりお祈りしております。

保育系人材派遣の **Mitsuba 株式会社 みつば** おーはろー みつば

お問合せ・ご登録は **0120-086-328**

横浜市西区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー33階

## 編集後記

今回の香葉は「親子」をひとつのテーマとして作成しました。子育て真っ最中の方や、子育てを振り返る方、さまざまな世代の方にとって「親子」の絆を確認する事のできる「香葉」となったのではないかと思います。お読みになった、ご意見・ご感想を是非、香葉会までお寄せください。

## 本の紹介

吹き渡る風の中で…

八ッ波節子(国7)



皆様、いかがお過ごしでしょうか。「吹き渡る風の中で…」という小さな本の中に、私の人生の想いを積み重ねて形にしてみました。輝かしい華やかさはないのだけれど、一日一日を丁寧に生きて、心の風景を思い描き、穏やかな風に、優しい光に、揺れる木々のしなやかさに、思いを留め、足早に消え去ってしまう時間に、自分の人生としてきちんと足跡を残してゆくこと、大事なことだと感じていきます。

これからの人生の午後の時を、穏かにそして自信を持って生きてゆくことができたら、どんなに素敵なことかと思えます。同じ日常の繰り返しの中で、消えてゆき失ない忘れていくものが多い中、振り返った時、私はいったい何をしてきたのかと虚しさや広がってゆく時があります。だから一日一日を丁寧に生きようと思っております。

小さな言葉の中に共鳴する思いを持っていただけたら嬉しく思います。私は「頑張る」という言葉が嫌いではありません。「頑張る」と言われたら、頑張ってみようという思いになります。頑張ってみようという思いに自分の色をつけて、ひそやかに輝いて、これからの人生、自分自身を築きながら、楽しいことや豊かな時を持ちたいと思います。

皆さん、頑張りますよネ。

